

コケが生えていてすべりやすく、左岸を捲いて上に出る。

やがて水量比一対二の二俣。水量の多い右へ入ると、また小さなゴルジュと小滝を繰り返す。沢ぞいには釣人の踏跡があるので、どこでも捲くことができるし、ゴルジュといっても水量が少ないうえ小さいので、緊張感はなく、ちよっぴり期待はずれという感じ。

沢の中程は倒木が多く、またぎながら進む。やがて一〜二箇の小滝が連続したあとに七箇の滝が出る。これは直瀑なので、右岸のヤブを高捲く。

すぐ二俣。左俣には一〇箇の滝があり面白そうだったが、水量の多い右俣をつめる。こちらはブッシュが

日蔭沢左俣右沢

秋道沢左俣の遡行を終えて尾根に出たのが九時三〇分。このまま下るのもつまらないということで、日蔭沢左俣右沢を下降し、左沢を遡行してから秋道沢右俣を下降しようという事になって、九時四〇分下降開始。

多く、だんだん急登となる。水が溜れた頃から、垂直に近いくらいの壁をブッシュにつかまりながら登り、尾根に出て日蔭沢の遡行を終える。

(記・オニヤニ)

「タイム」 日蔭沢出合(九:二〇) ↓ 二俣(一〇:〇五) ↓ 尾根(一一:三五) ↓ 五五)

一九八四年七月二十九日

五分くらいのヤブこぎで沢に降りる。しばらく下降すると、ナメ状の小滝が次々と現われる。すべてクライミングダウン。登ってみたらおもしろいだろうと考えながら下る。

左沢出合で小休止後、二俣まで下降。五〜一〇箇の小滝が続くがすべ

てクライミングダウンできた。二時一五分、下降終了。

(記・ナメ)

「タイム」 下降開始(九:四〇) ↓ 左沢 出合(一〇:五〇) ↓ 右俣出合 下降終了(一一:一五)

日蔭沢左俣左沢

一九八四年七月二十九日

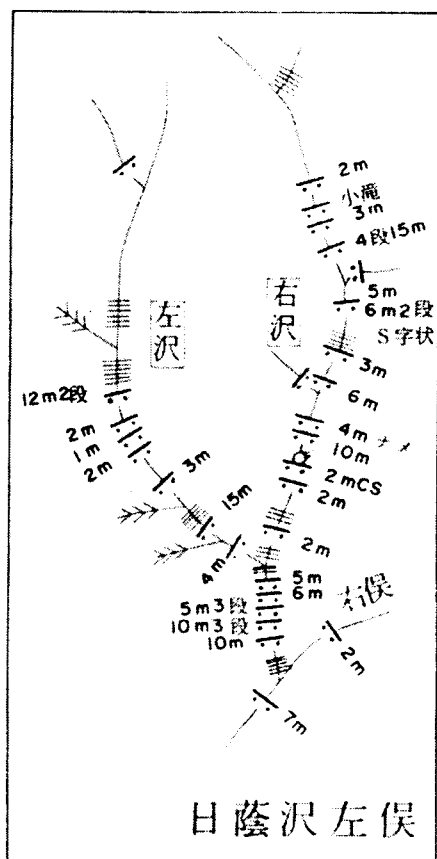
二俣から右沢の出合まで、快適な滝登りとナメを楽しむ。二俣で小休

止後、左沢に入る。いきなりの四段の滝は、何なくパス。このあと、ナ



滝の下降は慎重に

メ状の小滝が続き、すべて直登する。沢にや



ブがかぶってきたあたりから尾根めざして左の支沢に入る。一〇分くらいこのヤブこぎで尾根に出て、秋道沢右俣の下降に移る。(記・ナメ)

「タイム」 二俣(一一:一五) ↓ 右沢出合(一一:三〇) ↓ 尾根(一二:一五)